

も く じ

はじめに	1
1 開講にあたって	13
2 テキストと授業の進め方	15
1 誰がレコードとアーカイブズを作成するのか？ また何故作成するのか？	17
第 I 部のスタートにあたって	19
1 人々や組織は何故レコードを作成し保存するのか？	21
1.1 社会と情報	21
1.2 人々は何故レコードを作成し保存するのか？	22
1.2.1 諸君は何故君の個人的な情報とレコードを保存するのか？	22
1.2.2 諸君は少しの期間保存すると決めたのは何故か？	24
1.2.3 諸君の生活を支えるレコードとは？	25
1.2.4 人々がレコードを作成し保存する理由とは？	26
1.3 組織は何故レコードを作成し保存するのか？	27
1.3.1 個人レコードを国等の機関が作成するのは何故か？	27
1.3.2 組織がレコードを作成し保存する理由とは？	28
1.3.3 組織の業務活動とレコード保存	30
2 私たちは何故アーカイブズを保存するのでしょうか？	35
2.1 アーカイブズの意味	35
2.1.1 アーカイブズ： Archival Value	35
2.1.2 アーカイブズ： Continuing Value	36
2.2 誰がアーカイブズを利用するのでしょうか？	39
2.3 企業がアーカイブズを利用に供するのは何故でしょう	40

2.4	アーカイブズ保存の社会的ニーズは？	43
3	レコードキーピングの歴史的背景	45
3.1	レコードキーピングへの想い	45
3.2	欧米におけるレコードキーピングの歴史 - 古代から近代 -	46
3.2.1	古代から近世のアーカイブズ	46
3.2.2	近代のアーカイブズ	48
3.3	レコードキーピングの歴史 - 現代 -	51
3.3.1	社会主義国のアーカイブズ	51
3.3.2	第2次世界大戦後のアーカイブズ	51
3.4	日本におけるレコードキーピングの歴史	53
3.4.1	古代から近世	53
3.4.2	近代	54
3.4.3	史料館・文書館・公文書館等の設置	56
II	レコードとアーカイブズとは何か？	59
	第II部のスタートにあたって	61
4	情報とレコードの関係は？(1) - オーラルと書かれたレコード -	63
4.1	<i>Domesday Book</i> とその後	64
4.2	日本の古文書におけるオーラルとレコード	65
4.2.1	第2次大戦までの日本古文書学	66
4.2.2	オーラルと古文書	67
4.2.3	レコードの照合機能	69
4.2.4	古代・中世の文字史料	71
5	情報とレコードとの関係は？(2) - 情報の樹 -	74
5.1	情報とマナー	74
5.2	情報の樹	77
6	レコードとは何か？(1) - 電子環境における定義 -	87
6.1	AS 4390, ICA: Guide と ISO 15489-1 における定義	87
6.2	AS 4390, ICA: Guide と ISO 15489-1 の比較	89

6.2.1	その媒体や形態に関わらず？	92
6.2.2	「レコードされた情報」または「情報」？	92
6.2.3	「活動の証拠」または「証拠と情報」？	94
6.2.4	「内容」と「コンテキスト」および「構造」について	96
7	レコードとは何か？(2) - RECORDNESS と METADATA -	99
7.1	レコードを検証してみよう	99
7.2	再びレコードの内容・構造・コンテキスト	102
7.3	RECORDNESS と METADATA	104
7.4	ICA 推奨の METADATA	107
7.5	レコードのその他の特性について	110
7.5.1	レコード作成の場と活用	110
7.5.2	ユニークさ	110
7.5.3	アイテム	111
8	アーカイブズとは何か？(1) - 古典的定義から現代の定義へ -	113
8.1	古典的な定義	114
8.1.1	ダッチ・マニュアルの定義	114
8.1.2	ヒラリー・ジェンキンソンの定義	116
8.2	シェレンバーグの定義	117
8.3	オーストラリア・アーキビスト達による定義	120
9	アーカイブズとは何か？(2) - RECORDS CONTINUUM -	125
9.1	レコード・コンテニューム図	125
9.2	レコード・コンテニューム図の視点	127
9.3	レコード・コンテニューム図における四つの次元	129
9.4	レコード・コンテニューム図における四つの軸	131
9.4.1	レコードキーピング軸	131
9.4.2	ARCHIVE VS. ARCHIVES	133
9.4.3	証拠軸	136
9.4.4	業務処理軸	138
9.4.5	アイデンティティ軸	140

Ⅲ	レコードとアーカイブズ管理の基本要素とは何か？	143
	第Ⅲ部のスタートにあたって	145
10	ライフサイクル論	147
10.1	シェレンバーグのライフサイクル論	147
10.2	1990年代初めのライフサイクル論	149
10.3	電子環境のレコードとアーカイブズ経営の戦略とその方法 -ICAの四原則-	151
10.3.1	第一原則：電子レコードのライフサイクル	151
10.3.2	第二原則：レコード作成者とアーカイバル電子レコード	152
10.3.3	第三原則：評価	153
10.3.4	第四原則：保存とアクセス	154
10.4	ライフサイクル論とレコード・コンテンツウム図	156
11	レコード・リテンションスケジュールの考え方	160
11.1	レコード・リテンションスケジュールの定義	160
11.2	評価と処分	161
11.3	レコード・リテンションスケジュールの基本的あり方	165
11.4	評価の視点	168
11.5	レコード・リテンションスケジュールの具体例	169
12	レコードとアーカイブズ管理の基本的構成	172
12.1	レコード管理	172
12.1.1	妊娠／作成時に必要な業務	173
12.1.2	現用段階に必要な業務	173
12.1.3	半現用段階に必要な業務	173
12.1.4	非現用段階に必要な業務	174
12.2	アーカイブズ管理	174
12.2.1	調査	174
12.2.2	評価	175
12.2.3	収集	175
12.2.4	受入	175

12.2.5	編成と記述	175
12.2.6	保存	176
12.2.7	公開	176
12.2.8	普及	176
12.3	レコード管理とアーカイブズ管理からレコードキーピングへ	176
12.4	電子環境のレコードキーピングシステム	178
12.4.1	Electronic Records Management System: ERMS と Electronic Document Management Systems: EDMS	178
12.4.2	KNOWLEDGE MANAGEMENT	183
12.4.3	Standard Generalized Markup Language: SGML / eXtensible Markup Language: XML	185
13	機関としてのアーカイブズの基本的役割	187
13.1	何を所蔵するのか -IN-HOUSE ARCHIVES VS. COLLECTING ARCHIVES-	187
13.1.1	IN-HOUSE ARCHIVES	188
13.1.2	COLLECTING ARCHIVES	188
13.2	日本における公的アーカイブズ機関の位置と機能	193
13.2.1	公文書館法と公的アーカイブズ機関の設置根拠	194
13.2.2	情報公開制度のもたらした影響	196
13.2.3	情報公開制度とレコード管理規則	197
13.2.4	情報公開制度とアーカイブズ公開制度の関係	200
13.2.5	情報公開とアーカイブズ公開の谷間	202
14	アーキビストの役割	207
14.1	カナダ国立文書館におけるアーキビストの職務	207
14.2	CODE OF ETHICS	211

Introduction to Archives and Records Management	
in Electronic Environment	229
参照文献目錄	238
索 引	243